



慶應義塾大学病院3号館3階にて新たな医療サービス（自由診療）を開始しました

本医療サービスは、慶應義塾大学病院の医療スタッフが、病院全体と同水準の医療安全、医療の質管理のもとで、患者さんに安心・安全な自由診療を提供し、多くの患者さんのQuality of Lifeを高めることを目的としています。

スポーツ & メディカルフィットネスセンター

スポーツ & メディカルフィットネスセンターでは、2つの新しい医療サービスを開始します。1つめは多血小板血漿（PRP）療法、もう1つはメディカルフィットネスです。

PRP療法は、自身の血液を採取し遠心分離機にかけ、必要な内容分を自身の傷んだ組織に注射することで治療効果を期待する治療法です。近年急速に広まった治療法ですが、これまでその中身（血小板やサイトカインなどの量）はわかりませんでした。慶應義塾大学病院のスポーツ & メディカルフィットネスセンターが提供する新しいPRPは、慶應義塾大学発のベンチャーであるAdipoSeeds社との技術協力のもとで作製され、PRPの中身を分析することができます。これにより、従来あったPRPの品質のばらつきを抑え、創傷治癒促進効果を大きく高めることができます。このPRPの作製方法と分析の技術は世界でもユニークな技術であり、この技術

を使い、PRP療法の効能や適応と限界などについて、しっかりとした医学的根拠を構築していきます。

メディカルフィットネスは、医師とトレーナーが密に連携し、医科学的に適切な運動療法を提供します。薬を処方するように、確かなエビデンスに基づく一人ひとりに適した「運動」を「処方」します。また、予防医療センターや各診療科と連携して、未病の方や疾患をお持ちの方、あるいは手術後の方でも利用できるサービスを提供していきます。



詳しくは
こちらから



赤ちゃんの頭のかたち外来

慶應義塾大学病院の小児頭蓋顔面センターでは、頭蓋縫合早期癒合症という病的な頭の形の変形に対する治療に力を入れています。これまで多くの赤ちゃんの頭蓋変形の相談があり診察をしていますが、その多くは、病的な頭蓋縫合早期癒合症に伴うものではなく、向き癖など外部からの圧力が原因の頭の歪みです。この変形を位置的頭蓋変形と呼びます。

位置的頭蓋変形は中等度以上になると、耳の位置が変わってしまったり、おでこや頬など顔の中で左右非対称を起こしたりします。耳の位置が変わってしまうと、メガネのさやの位置が変わってしまうためにうまくかけられないという問題が将来的に起こる可能性があります。

そういった状態を身体を傷つけることなく改善させるには、赤ちゃんの頭囲が急成長する生後3ヶ月から生後6ヶ月頃ま

での間に治療用のオーダーメイドのヘルメットを作成し、約半年間装着します。

当院では、小児科、脳神経外科、形成外科が連携して診療に当たり、適切な診断を行います。病気によって歪みが生じているのか、または位置的変形なのか、適切な鑑別診断（頭蓋健診）を受け、状況に応じた治療を受けることが可能です。



詳しくは
こちらから



ご予約や内容に関するお問い合わせは以下にて受け付けております。

慶應義塾大学病院3号館3階3Y受付（電話番号：03-5363-3858）

美容医療

美容外科は形成外科の一分野です。現在、手術後の合併症などに対するアフターケアが課題のひとつとなっており、大学を含めた医育施設での適切な美容医療の教育や指導が求められています。当院の美容医療では、診察、デザイン、アフターフォローを含め一貫して当院医師が担当し、当院での通常診療と同水準のクオリティで診療体制を整えています。

また、社会の中での大学の大きな役割のひとつに研究があります。大学で美容医療の研究を行うことで、美容医療を安全に提供したり、新たな発想で学問的にさらに発展させたりすることができる可能性もあります。これらに基づいた、安全・安心の美容医療を提供することが、今回の慶應義塾大学病院での美容医療診療開始の目的です。今回は、痩身、黒子、瘢痕（きずあと）の治療を行う自費診療外来を開設す

ることになりました。これらはすべて慶應義塾大学医学部の形成外科学教室で長らく研究を行っている「きずあとを残さない皮膚再生」の基礎研究の成果が応用されています。

診療は完全予約制で、それぞれの悩みに時間をとって丁寧にコンサルトし、施術します。



詳しくは
こちらから



ニューロモデュレーションセンター

これまで、脳卒中や脊髄損傷などの中枢神経損傷に起因する運動機能障害は、ある一定期間を過ぎると回復しないという考えが定説でした。しかし、近年、さまざまな治療機器を用いた新しい治療法が開発され、急性期や回復期のあとの生活期においても運動機能の改善が見込めることがわかってきました。ニューロモデュレーションセンターでは、中枢神経損傷後の運動機能障害を抱える患者さんに対してニューロモデュレーション治療を行い、機能改善に取り組んでいます。

ニューロモデュレーションとは、外部からの刺激により神経活動を調整することを指します。脳卒中や脊髄損傷などによって生じる神経活動の低下や過活動を、この技術により整え、運動練習の効果を高めます。具体的な治療機器として、大脳皮質の神経細胞に直接的なアプローチを行うことができる経頭蓋磁気刺激（TMS）装置、脳波から運動意図を読み取りロボットを動かすニューロフィードバック機器、生体電

位信号を検出して歩行をアシストする歩行ロボットなどがあります。

当センターでは、これらの先端的な医療機器を活用し、科学的な根拠に基づく治療を安全に提供することで、患者さんご家族の生活がより豊かになることを目指しています。



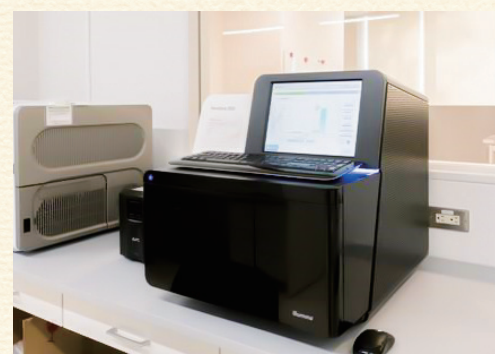
詳しくは
こちらから



がんゲノム外来

同じがんでも、がん細胞の遺伝子変化は患者さんごとに異なります。がん遺伝子パネル検査は一度に数百種類の遺伝子変化を検査することが可能です。この検査により、がんの性質をより細かく理解し、一人ひとりに合った治療法を選択できる可能性が広がります。

保険診療によるがん遺伝子検査が適応でない患者さん、詳しい検査を早く行いたい患者さんなどに、自費診療によるがん遺伝子パネル検査をご案内します。



詳しくは
こちらから

